

# 小松君に読売新聞社賞

## 飛行機を明るく表現

「第38回世界児童画展」(美育文化協会主催、読売新聞社など後援)で、県内から、香南市の「絵画教室のいち」(山本洋一郎代表)に通う市立野市東小3年、小松祐生君(9)の作品「いってらっしゃい最終便!」が、特別賞の読売新聞社賞に入賞した。また、特選・入選が多かった団体に贈られる「都道府県団体賞」には、南国市立奈路小が輝いた。



小松祐生君の「いってらっしゃい最終便!」



小松君

あかね色の空に飛び立つ飛行機は明るく、色遣いがみずみずしい。一緒に絵画教室へ通う姉友佳さん(11)が、絵画コンクールの授賞式のために東京へ向かったときのことを、想像しながら

描いたという。2か月かかって仕上げた力作。すべての窓の中に、乗客一人ひとりの姿が丁寧に描かれているのも印象的だ。「楽しそうな様子を表現しようと思って。一生懸命描いたのでうれしい」と笑顔を見せた。

1年生で絵を習い始め、「思ったことを自由にかけ」と夢中になった。週一回の教室では、2時間みっちり、集中力を切らさない。元々は動物を描くのが好き



声援を受けて懸命にタスキをつなぐ児童ら(四万十市佐岡で)

だったが、3年生で野球を始めてからは、人物に興味を持つようになった。表情豊かに描くことができ、指導する山本洋一郎代表は「思いやりのある性格が表れている」とほめる。

野球に夢中の今は、「投手が思いっきり投げているところ」を一番描きたいという。「また次も頑張りたい」と意気込んだ。

3月28日、東京で表彰式がある。

都道府県団体賞 南国・奈路小輝く

南国市立奈路小は、2人が特選、5人が入選した。全児童37人の小規模校だが、

「すべての子どもたちが、年に1度は表彰されるように」と、様々なコンクールに積極的に応募している。浜口真人校長は「特別な指導はしていないのに、よく頑張ってくれた。受賞をこれからの自信につなげてほしい」と喜んだ。

同校では市街地からの児童を受け入れており、今年度は半数の18人が校区外から通っている。しかし地域との連携は強く、すべての子どもの名前を知っている人もいる。浜口校長は「地域に見守られ、伸び伸びと育っている。だから、学んだことを素直に吸収できるのだろう」と話していた。

スポ少駅伝  
14チーム力走  
四万十市  
第18回四万十市スポーツ少年団対抗駅伝大会(市スポーツ少年団協議会主催)が16日、同市安並一佐岡の